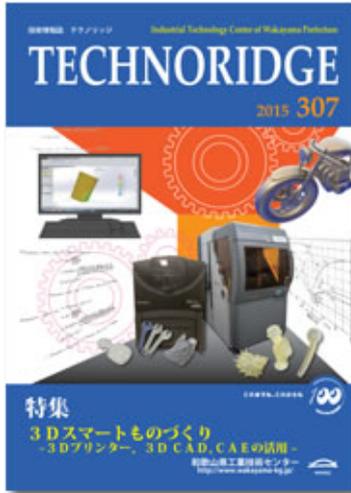


技術情報誌「テクノリッジ307号」を発行しました



テクノリッジは、和歌山県工業技術センターの技術情報誌として年間4回、その時々に関する情報を関連企業の方々にお知らせする情報誌です。

現在、県内外の企業や団体、約300社に送付しご愛読いただいています。今回発行の307号では「特集 3Dスマートものづくり」と題して以下の内容を掲載しています。

- ・ 3Dスマートものづくり
- ・ 3DCAD設計、3Dモデリング、CAE解析の活用
- ・ 3Dプリンターによる造形
- ・ 組織変更、新人紹介

工業製品のものづくりでは、試作評価と設計変更を繰り返して、要求性能を満たしたものを量産に移します。1回の試作評価で要求性能を満たすことは稀で、2次試作、3次試作・・・と、複数回の試作を重ねて問題点を解決してゆくことになります。こうして試作回数が増えると、開発コストがかさみ、販売予定価格を値上げしなければ、コストを回収できなくなります。また、開発期間も伸びるため、市場投入のタイミングを逃すことにもなりかねません。設計段階で多くの問題点を解決することができれば、開発コストや期間の増加を抑制できるのですが、ベテランの設計者でもなかなか難しいのが現状です。

本号では、開発コストの低減や開発期間の短縮を図るための3Dデータの活用方法と、工業技術センターの「3Dスマートものづくり」の取り組みについてご紹介します。

※ なお、詳細については下記のURLをご参照ください。

[☞ センターの刊行物](#)

掲載日付: 2015年05月29日